



問

過酷事故はらむ原発再稼働は断念させるべき
乾式貯蔵で安定的に使用済み核燃料保管要求

日本共産党 川崎 篤子 議員

議員 東海第2原発の再稼働について村長は、6市町村の事前了解の追加を求め、原電貯蔵プール内の使用済み核燃料を乾式キャスクに早期に収納するよう要求している。

過酷事故を起こす危険性がはらむ原発の再稼働は断念させるべきではないか。議論は具体的にどう進められ、要求はいつ行われるのか。

村長 東海村、日立市、ひたちなか市、那珂市、常陸太田市、水戸市で構成する原子力所在地域首長懇談会で、安全協定の見直し、使用済み核燃料の安全対策の強化を話し合い、3月15日に原電に要求する。

原電の燃料プールには、使用済み核燃料が1250体、定期検査で取り出したもの764体、合わせて2014体が保管されている。プー

ル内で7〜8年熱を冷まし、移動可能なものは770体ある。

乾式貯蔵庫の乾式キャスクは、17基完成し、15基に915体が保管されている。1基に61体が収納でき、建屋内には24基設置される。あと9基549体しか格納の余裕はない。さらにプールから取り出し貯蔵するには、新たな乾式貯蔵庫が必要になる。

電力業界や政府の方針で使用済み燃料は、青森県に持ち出すことが前提だがいつになるか分からない。東海村は、まず乾式貯蔵で安定的に使用済み核燃料を保管するよう要求したい。

議員 再稼働によって核燃料廃棄物は、これ以上作ってはならないと実感するものです。



家並み

問 どんな理由であれ「体罰」は許されない

答 子どもの意欲引き出す指導のあり方学ぶ

議員 「体罰」は子どもの人権を侵害し、人格を否定するもの。命と安全を守るべき教師が、どんな理由であれ「体罰」という名の暴力をふるうことは、絶対に許されない。本村の体罰問題の取り組みと実情を伺う。

教育長 本村は、学校・行政が一体となって体罰問題に取り組むため、

学校長と教育長の連名で保護者向けに体罰の調査依頼文書を出した。調査用紙に記載された内容について、校長か教頭が、保護者、子ども達、教師と直接話し合い、行き過ぎた指導や言葉の暴力などがあった場合は、その教師に指導改善を促す指導をしている。調査では、乱暴な言葉についても記載してもらった。部活動では、感情的な指導があったため、学校長と話し合い、当該教員の指導を進めている。各学校では、具体的な指導場面を想定しながら、子どもの意欲を引き出す指導のあり方を学ぶ機会を作っている。



入学を待つ校